

プロジェクト開始後1年

本プロジェクトは2009年3月17日にRDを締結しましたのでちょうど1周年を迎えました。この1年を振り返りますと、ゆっくりではありますが確実に歩みを進めてきたと思います。

9月までの前半は、主にプロジェクト活動の進め方の枠組みづくりに力を注いだ結果、進め方は定着しました。年間の活動方針はJCCで合意し、日常的な活動はSteering Committee会議で決定し、Weekly meetingで実務を確認しながら進めています。

10月以降、後半の半年は活動が多く、目が回るようでした。まずは、10月27-30日、4日間のMDTワークショップを開催し、新人身取引対策法下でのMDTの役割と責任について、実践経験に基づいて確認しました。続いて、11月22日-12月5日の本邦研修にはタイから15人が参加し、日本の関係者とのネットワークを強めました。1月14日には帰国後の報告会を兼ねたMDTワークショップを開催しました。

さらに、2月19-21日には、人身取引被害者自身によるピアサポートを中心にした、社会復帰モデルの構築の計画のためのワークショップを開催しました。そして、極めつけが2月23-25日のメコン地域ワークショップで、これにはメコンの周辺国から計20名の関係者を招いてタイのMDTの経験を共有しました。また、日本からも短期専門家として池内内閣官房参事官補佐を招聘し日本の取組を紹介しました。またこの間、11月には日本から運営指導調査団の来訪、1月には第2回JCCを開催しました。

これらの多彩な活動に、カウンターパートと一丸となって取り組んできたことで、それぞれのワークショップの目的が達成されただけでなく、チームとしての一体感が高まり、今後ともこのプロジェクトと一緒に取り組もうという意欲が一層高まったように見えるのはうれしいことです。また、対外的には、JICAのプロジェクトの存在をタイ国内外に周知することができました。私たちにとってうれしいことは広い部屋をいただいたことです。これもプロジェクトへの認知を示すものと言えましょう。



2年目以降は、1年目の活動に加えて、MDT実施ガイドラインの作成、チェンライ県、パヤオ県というプロジェクト対象地域におけるMDT活動の検証、人身取引被害者自身によるピアサポート活動支援とその成果のMDTへの統合など、プロジェクトの目的であるMDT強化につながる活動を展開します。すでに、MDT実施ガイドライン作成ワーキンググループを立ち上げたところですが、早くもブレインストーミングが始まっており、皆非常に意欲的なことがうかがえ、楽しみです。

来年度も引き続きご支援お願いします。